

4月6日、日頃から当協会が大変お世話になっている自民党のそのだ修光参議院議員が、介護福祉団体のトップを招き、座談会を開催しました。当協会からは森会長が出席し、人材不足の問題やICT化における課題、次期報酬改定での基本報酬の引き上げなどについて発言し、そのだ先生へ更なる期待を託させていただきました。

介護事業者の事業環境を改善し、我が国の介護保険制度を持続可能なものにしていくためには、政治の力が絶対に必要です。これまで介護業界は政治との繋がりが強いとはいえ、各団体の動きもバラバラでした。

しかし今夏の参議院選挙に向けて介護団体が結束し、一致団結して介護業界の代弁者であるそのだ修光先生の再選を目指して活動しています。今回の座談会も、そのだ先生を交えて業界の今後の課題について議論すると同時に、そのだ先生と各団体間との連帯感を示す良いイベントとなりました。

7月に予定されている参議院選挙に向けて、当協会はこれからもそのだ修光先生を応援してまいります。



後列左より：全国老人福祉施設協議会・大山副会長、日本在宅介護協会・森会長、日本福祉用具供給協会・小野木理事長、全国老人福祉施設連盟・福嶋委員長、障がい社会福祉研究所・足高会長  
前列左より：日本認知症GH協会・江頭常務理事、全国老人福祉施設協議会・平石会長、そのだ修光先生、全国老人保健施設協会・東会長、日本介護支援専門員連盟・藤岡会長

## ■ 出席団体（順不同）

1. 一般社団法人日本在宅介護協会
2. 公益社団法人全国老人福祉施設協議会
3. 全国老人福祉施設連盟
4. 公益社団法人全国老人保健施設協会
5. 公益社団法人日本認知症グループホーム協会
6. 一般社団法人日本福祉用具供給協会
7. 日本介護支援専門員連盟

## ■ 座談会の模様



### ←全国老人福祉政治連盟

「人材不足が大変。特にケアマネ。ケアマネ辞めて介護職になる者もいる。男性だと運送業に転職する。ケアマネや看護、准看護師にも処遇改善できるようにしてほしい。ICT導入は積極的にやっているが、使い手は50代以上。LIFEも使い勝手悪い。導入支援やシステム改善必要。」

### 日本介護支援専門員連盟→

「ケアマネは養成課程も試験も研修も難しいのに、処遇改善の対象外。成り手がいなくなる。処遇改善、研修の簡素化、大学教育を充実させて養成課程を出たら国家資格が取れるという形にすべきではないか。ICTはかなり浸透している。」



### ←日本認知症グループホーム協会

「人材不足の前に人手不足。人材派遣料の適正化と補助制度、特定技能在留資格に介護も2号の適用が必要ではないか。処遇改善加算の仕組みが煩雑、そろそろ一本化するべきでは。ICT活用は黎明期。良いものを取り入れていきたい。特に記録の簡素化や外国人人材対応のものに期待。」

### 障がい者福祉研究所→

「知的障がい者は長寿化している。65才を過ぎたら、突然介護保険制度に移行させられるが、障がい者対応困難なことも多い。行きすぎた地域移行など改めて、施設も活用しながら、人手不足のなかでも専門的な介助や支援ができるよう整えるべき。」



### ←日本福祉用具供給協会

「人材不足は幸いそれほど大変ではない。福祉用具は一番少ない価格で6割の在宅介護者を支えている。どんな僻地でも使える。縁の下の力持ち。財務省から軽度の方々の福祉用具レンタルを販売に切り替える圧力が掛かっているが、レンタルにより状態に応じたケアができ重度化も防げる。」

### 日本在宅介護協会→

「在宅介護は深刻な人材不足。少子高齢化の中で人材確保は難しい。少ない人材でどうやって回せるかという視点に変える必要がある。インフレに応じた報酬改定にすべきでは。ICTについて、もっと現場に役立つものを作って欲しい。」



座談会の司会進行は全国老人福祉施設協議会の大山副会長が務められ、冒頭に平石会長からご挨拶、最後に全国老人保健施設協会の東会長から総括がありました。次期介護報酬改定については、各団体とも加算によるプラス改定維持ではなく、基本報酬アップを望む声が共通していました。座談会の前後にはそのだ修光先生からもお言葉をいただき、参院選に向けた更なる支援の要請を受けました。参加団体全体で連帯することを誓い、閉会となりました。